



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月9日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
 コード番号 7638 URL <http://www.newart-ir.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 2021年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	13,665	3.4	1,910	24.8	1,961	22.5	1,158	18.0
2020年3月期第3四半期	14,146	14.8	2,541	68.4	2,532	73.1	1,412	123.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,132百万円 (16.8%) 2020年3月期第3四半期 1,361百万円 (114.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	73.52	
2020年3月期第3四半期	88.23	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	19,227	8,944	46.5
2020年3月期	17,332	8,288	47.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 8,944百万円 2020年3月期 8,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		30.00	30.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,259	1.9	2,998	10.0	2,946	10.0	1,352	10.0	85.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	16,626,375 株	2020年3月期	16,626,375 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	870,620 株	2020年3月期	866,160 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	15,759,012 株	2020年3月期3Q	16,011,343 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては[添付資料] P 4. 「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年12月31日）においては、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き我が国経済全体に大きな影響を及ぼすこととなりました。

こういった経済情勢の中ではありますが、当社グループの事業につきましては、当第3四半期連結会計期間においては、様々な施策を実施することや、テレビCMやブライダル情報誌などの集客を強化すると同時に積極的に新規出店も進めていき、前年同期の売上および利益ともに上回ることが出来ました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高136億65百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益19億10百万円（前年同期比24.8%減）、経常利益19億61百万円（前年同期比22.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益11億58百万円（前年同期比18.0%減）となりました。

現時点においては、第1四半期連結会計期間のマイナス分をまだ完全にカバーできておりませんが、第2四半期連結会計期間を上回る改善が大きく進んでおり、2020年11月10日発表の通期業績予想の数値を達成すべく、全社を挙げて業績向上に取り組んでおります。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、経営管理上の観点から事業間のシナジー強化のため、「ブライダルジュエリー事業」の報告セグメントの名称を、「ジュエリー・アート事業」に変更し、従来、「フィンテック事業」に含まれていたアート事業の報告セグメント区分を「ジュエリー・アート事業」に、「その他事業」に含まれていた一部の事業について、報告セグメントの区分を「フィンテック事業」に変更しております。さらに、第2四半期連結会計期間より、経営管理上の観点から、従来、「その他事業」に含まれていた「スポーツ事業」を新たな報告セグメントとし、クレジット事業について、報告セグメントの区分を「フィンテック事業」に変更しております。

以下の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① ジュエリー・アート事業

当第3四半期連結累計期間におけるジュエリー・アート事業の売上高は115億34百万円（前年同期比1.9%減）、セグメント利益は20億83百万円（前年同期比19.4%減）となりました。

当第3四半期連結会計期間においては前年同期の実績を大きく上回ることができ、期待の持てる結果を残すことができました。当該事業は、グループ全体を牽引する主要なビジネスであり、当該事業の運営が全体の業績に大きく影響いたします。ブライダルジュエリー店舗の出店は引き続き積極的に進めており、新規の店舗展開として、2020年11月に「銀座ダイヤモンドシライシ」池袋パルコ店と「銀座ダイヤモンドシライシ」「エクセルコダイヤモンド」統合店の山形店の出店を実施いたしました。店舗展開につきましては、引き続き国内での新規出店や、海外での出店も視野に入れ、今後も積極的に進めてまいります。

② ヘルス&ビューティ事業

当第3四半期連結累計期間におけるヘルス&ビューティ事業の売上高は20億20百万円（前年同期比11.1%減）、セグメント損失は78百万円（前年同期はセグメント利益1億41百万円）となりました。

当第3四半期連結会計期間においては売上高も前年同期の実績を上回り、回復傾向にあります。当該事業においては、「La Parler」のハイグレードサロン「La Parler Felicia」ブランドの一号店として、2020年12月に新宿店を出店し、営業成績のさらなる向上を図るべく、努力を続けております。

③ フィンテック事業

当第3四半期連結累計期間におけるフィンテック事業の売上高は0百万円（前年同期はゼロ）、セグメント損失は27百万円（前年同期はセグメント損失26百万円）となりました。当第3四半期連結累計期間におけるフィンテック事業は信販事業が開始したばかりなので、大きな売上を計上することはありませんでした。当該事業は、ヘルス&ビューティ事業と連動して顧客サービスの充実を図り、グループ全体の業績向上に寄与すべく、将来に向けての事業展開を進めていきます。

④ スポーツ事業

当第3四半期連結累計期間におけるスポーツ事業の売上高は1億35百万円（前年同期比1.3%減）、セグメント損失は9百万円（前年同期はセグメント損失29百万円）となりました。当第3四半期連結会計期間においては売上高も前年同期の実績を上回っております。

スポーツ事業については、新聞広告などにより、優良顧客へのアプローチが進んでおり、「CRAZY」ブランドの展開としてオープンした銀座本店への新規顧客の来客が増加しております。

現在は、ゴルフフェアなどのイベントに向けた商品開発などに注力して事業展開を進めて来期の業績向上に向けたビジネス展開に注力しています。

また、本年度に設立した株式会社ニューアート・ブランド開発研究所において様々なデザインアイテムの開発に取り組んでおり、ゴルフ製品以外のアイテムとしてビジネススニーカーの開発等を進めてより広い顧客層へのアプローチを進めております。

(注) 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) (千円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売等	11,533,364	△1.9	84.4
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	1,996,439	△11.4	14.6
フィンテック事業	アートファンドの組成・運営、クレジット事業	778	—	0.0
スポーツ事業	ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発	135,177	△1.2	1.0
合 計		13,665,759	△3.4	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含んでおりません。
2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比31百万円増加（前連結会計年度末比0.2%増）し、130億75百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金の増加5億31百万円並びに現金及び預金の増加3億2百万円の方で、商品及び製品の減少8億49百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比18億63百万円増加（同43.5%増）し、61億51百万円となりました。これは、建物及び構築物（純額）の増加8億28百万円並びに土地の増加8億1百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比18億94百万円増加（同10.9%増）し、192億27百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比3億41百万円増加（前連結会計年度末比4.2%増）し、83億80百万円となりました。これは、前受金の増加3億56百万円並びに未払金及び未払費用の増加2億89百万円の方で、未払法人税等の減少5億22百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比8億97百万円増加（同89.3%増）し、19億2百万円となりました。これは、長期借入金の増加5億57百万円並びにリース債務の増加1億4百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比12億38百万円増加（同13.7%増）し、102億82百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比6億56百万円増加（前連結会計年度末比7.9%増）し、89億44百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益11億58百万円による増加の方で、剰余金の配当4億72百万円による減少などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は46.5%（前連結会計年度末は47.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期通期の業績予想につきましては、2020年11月10日公表の業績予想から修正はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

新型コロナウイルス感染症の今後の拡大状況や収束時期によっては、当社の業績に予期せぬ変動が生じる可能性があるため、引き続き今後の状況を注視するとともに、通期連結業績予想について開示すべき重要な事象等が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,931,810	3,234,068
受取手形及び売掛金	1,202,573	1,733,790
商品及び製品	8,305,177	7,455,537
仕掛品	76,036	68,834
原材料及び貯蔵品	259,580	316,561
前払費用	138,380	160,104
その他	372,288	349,069
貸倒引当金	△241,805	△242,481
流動資産合計	13,044,043	13,075,485
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	588,451	1,417,007
機械装置及び運搬具（純額）	8,969	7,108
工具、器具及び備品（純額）	751,873	875,348
土地	400,880	1,201,880
リース資産（純額）	139,160	271,750
建設仮勘定	7,350	—
有形固定資産合計	1,896,685	3,773,095
無形固定資産		
のれん	302,708	286,868
その他	58,421	47,769
無形固定資産合計	361,130	334,638
投資その他の資産		
長期貸付金	699,740	652,940
繰延税金資産	191,554	143,748
敷金及び保証金	1,168,844	1,218,012
その他	564,509	624,485
貸倒引当金	△594,010	△594,952
投資その他の資産合計	2,030,639	2,044,235
固定資産合計	4,288,454	6,151,969
資産合計	17,332,497	19,227,455

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	260,416	160,000
短期借入金	3,822,000	3,943,201
1年内返済予定の長期借入金	574,624	462,463
リース債務	43,390	79,314
未払金及び未払費用	727,225	1,016,316
未払法人税等	863,918	341,788
前受金	1,469,344	1,825,698
その他	277,844	551,388
流動負債合計	8,038,764	8,380,170
固定負債		
長期借入金	459,823	1,017,740
リース債務	107,240	211,308
退職給付に係る負債	213,387	219,364
その他	224,857	454,335
固定負債合計	1,005,308	1,902,748
負債合計	9,044,072	10,282,919
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,192	2,376,183
利益剰余金	3,927,100	4,612,927
自己株式	△630,022	△633,259
株主資本合計	8,290,523	8,973,103
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△79	73
為替換算調整勘定	△2,019	△28,640
その他の包括利益累計額合計	△2,098	△28,567
純資産合計	8,288,424	8,944,536
負債純資産合計	17,332,497	19,227,455

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	14,146,674	13,665,759
売上原価	4,708,332	5,421,576
売上総利益	9,438,342	8,244,183
販売費及び一般管理費	6,896,537	6,333,192
営業利益	2,541,805	1,910,990
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,566	10,505
為替差益	26,435	35,804
助成金収入	—	46,510
保険解約返戻金	11,661	—
その他	2,607	4,507
営業外収益合計	43,271	97,328
営業外費用		
支払利息	43,855	45,233
貸倒引当金繰入額	6,150	1,010
その他	2,813	403
営業外費用合計	52,820	46,647
経常利益	2,532,255	1,961,671
特別利益		
固定資産売却益	1,358	18
特別利益合計	1,358	18
特別損失		
固定資産除却損	20	2,837
減損損失	107,774	—
特別損失合計	107,794	2,837
税金等調整前四半期純利益	2,425,819	1,958,852
法人税、住民税及び事業税	1,106,432	752,412
法人税等調整額	△63,309	47,806
法人税等合計	1,043,123	800,219
四半期純利益	1,382,696	1,158,633
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△29,918	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,412,614	1,158,633

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,382,696	1,158,633
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50	152
為替換算調整勘定	△21,714	△26,621
その他の包括利益合計	△21,663	△26,469
四半期包括利益	1,361,032	1,132,163
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,390,951	1,132,163
非支配株主に係る四半期包括利益	△29,918	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・アート 事業	ヘルス&ビューティー 事業	フィンテック 事業	スポーツ事 業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,756,648	2,253,255	—	136,770	14,146,674	—	14,146,674
セグメント間の内部売上高又は振替高	838	20,305	—	256	21,400	△21,400	—
計	11,757,487	2,273,561	—	137,026	14,168,075	△21,400	14,146,674
セグメント利益又は損失(△)	2,584,783	141,270	△26,305	△29,201	2,670,547	△128,742	2,541,805

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ジュエリー・アート事業」において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、54,608千円であります。

「ヘルス&ビューティー事業」において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては53,165千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・アート 事業	ヘルス&ビューティー 事業	フィンテック 事業	スポーツ事 業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,533,364	1,996,439	778	135,177	13,665,759	—	13,665,759
セグメント間の内部売上高又は振替高	721	24,036	—	30	24,788	△24,788	—
計	11,534,086	2,020,475	778	135,207	13,690,548	△24,788	13,665,759
セグメント利益又は損失(△)	2,083,060	△78,307	△27,845	△9,909	1,966,997	△56,007	1,910,990

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、経営管理上の観点から事業間のシナジー強化のため、「ブライダルジュエリー事業」の報告セグメントの名称を、「ジュエリー・アート事業」に変更し、従来、「フィンテック事業」に含まれていたアート事業の報告セグメント区分を「ジュエリー・アート事業」に、「その他事業」に含まれていた一部の事業について、報告セグメントの区分を「フィンテック事業」に変更しております。

また、各報告セグメントの業績をより適切に評価するために、従来、各報告セグメントに配賦していなかった全社費用の一部を合理的な配賦基準に基づき各報告セグメントに配賦しております。

第2四半期連結会計期間より、経営管理上の観点から、従来、「その他事業」に含まれていた「スポーツ事業」を新たな報告セグメントとし、クレジット事業について、報告セグメントの区分を「フィンテック事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称及び区分並びに変更後の利益又は損失の算定方法に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。